

JBIC と EBRD が 2004 年 6 月 30 日（札幌）7 月 1 日（東京）で実施したサハリン II フェーズ 2 プロジェクト環境関連意見交換会において

（記録作成：FoEJapan）

2004 年 11 月 23 日

	参加者から出た意見	融資機関の対応
この意見交換会について		(JBIC) 意見を聞き、環境審査に役立てたい。EIA に誤りや不十分な点があれば、その内容を事業主体に確認する。 (EBRD) EIA について追加情報を求めている。適時公開する。4 行で情報を共有し、同一の立場で行動する。
油流出に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・ サハリンエナジー社 (SEIC) には油流出事故の際、船会社に責任を負わせるだけでなく、危機管理体制をとってほしい。 ・ SEIC は油流出事故の際に洋上回収を前提とし、北海道には被害がないという想定をしているのだが、それは専門家によって議論されているのか。 ・ 北海道の漁民に対する油流出時の被害想定はどうなっているのか。漁業者や市民の意見を聞いて対応を検討する協議会が必要だ。 ・ 資源開発と同じくらいオホーツクの海洋資源を守ることが必要だ。 ・ 油流出事故の際の対応を明確にしてほしい。防除策を漁民に伝えてほしい。 	(JBIC) <ul style="list-style-type: none"> ・ 油流出のモデリングは、日本の専門家にも審査してもらっている。 ・ 国土交通省や海上保安庁にも伝えている。連絡体制もできる限りのことはしている。融資を検討する際にも考慮している。進展があれば説明したい。 (EBRD) <ul style="list-style-type: none"> ・ 油流出事故のシナリオについてはまだ精査が必要。万が一の場合の対策として、油流出対策の専門会社との契約を考えている。日本領域で油流出がおきた場合にロシア船舶が容易に日本領海に入って対応できるようにしておくことが必要。飛行機で回収のための機材を運ぶ際の通関を簡単にする必要もある。
パイプライン	<ul style="list-style-type: none"> ・ SEIC は 800 km のパイプラインを建設中だが、サハリンでは多くの地震があり、パイプラインによる油漏れがすぐ監視できず、問題ではないか。アラスカではパイプラインを見える状態にしたほうがいいのではないか。 	
土砂投棄	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土砂・有害物質の投棄は将来にわたって生態系を崩す。 	
協議・情報公開・専門家委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ サハリンで住民の意見聴衆など社会全体の調査を行ったが、開発に対し絶対に反対という立場ではなかった。開発側の都合のよい情報だけ流しているのではないかという話があった。 ・ SEIC は日本のステークホルダーと適切なコンサルテーションを実施すべき。 ・ 日本語での情報提供をしてほしい。 ・ 異なった立場の意見やデータの調整を行うことができる専門家委員会を設置すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査報告の日本語での公開について、概要が全文かは未定だが開示するよう求める。 ・ 専門家、各省庁、当事者を集めて協議会という形で検討したい。

野生生物

- ・ ハマシギのサハリン固有亜種やカラフトアオアシシギなどシギ・チドリ類の希少種への対応を懸念。環境影響評価(EIA)には調査結果はあるものの、対策が書かれていない。
- ・ 希少種に対する累積的な影響を考慮してほしい。また、サハリンにおける複数の開発行為による累積的な環境影響も評価してほしい。工事が進むと実行可能な環境対策の選択肢の幅が小さくなってしまう。
- ・ EIAの信憑性に疑問。特に、野生生物への影響について正確な調査が必要。EIAは明らかに環境影響を過小評価している。
- ・ 油汚染の際の影響をはかるためにも、現在の正常な状態での生態系メカニズムを報告書にするべき。(海鳥、コククジラ、海洋資源などについて)
- ・ この地域は非常に特異で生物の往来が活発。海鳥の部分についてSEICのESHIAを見たが、季節的にダイナミックに動く生物環境に関する情報が欠けている。汚染されたときに点での情報ではなく、線での情報があるべき。
- ・ この地域は、冬に氷が張るが、氷の張り方は生物に非常に大きな影響を与える。氷が解けないときはカレイやひらめが大発生する。氷が早く解けるときはスケトウダラが繁殖する。これらへの影響を適切に把握するために、ベースラインデータが必要。
- ・ 植生などの情報も入れるべき。石油で汚染されない前の生物系のモデルを作ってほしい。
- ・ オオワシへのインパクトについてEIAには書かれていない。開発により営巣地が奪われること、工事によって繁殖を妨害することのほかに油事故による影響が考えられる。オオワシはえさを湾の魚に頼っているため、湾が汚染されれば水生生物だけでなく、オオワシを含む野生生物が破滅的に影響を受けることになる。
- ・ トドは国際的に数が減っており、西側では65%のトドが減少している。重要な個体群として調査が行われているが、EIAではこれについてほとんどの調査がされていない。イオニー島、チュレニー島が繁殖地として重要だが、調査自体が繁殖地はもちろん、どこでえさを取っているのかという調査が行われていない。
- ・ チャイボやピルトウンで多くのアザラシを観察している。餌場など種がどのようにその地を利用しているのかについて明らかにしなければ、種への影響はわからない。
- ・ コククジラの調査の合間にアザラシも見たと記載。沿岸での定着性が大きいアザラシは飛行機での調査が必要。不適切な調査方法で策定されたEIAをもとに、審査を行っているのか。SEICはEIAが完全でないといっているが、ロシア政府の承認は出ている。これは問題ではないか？
- ・ SEICは過去のデータも活用していない。1970年代の文献を参照しているが、これは古すぎる。事業が進むことによって、環境対策やベースライン調査ができなくなり銀行の環境基準も満たなくなる。現状を把握するために立ち止まって、対応を検討する必要がある。

(JBIC)コククジラは保護計画をつくる予定。他の希少種についても保護計画を作るか否かを含め、今後検討していく。

(EBRD)ハマシギについてSEICに追加情報を求めている。

